

令和4年度 普及活動成果集

めざそう！ 人がそだつ・つながる農業



女性農業者研修会



水田農業経営研修会



若手花き生産者現地指導



アスパラガス現地検討会



ブドウ冬期管理講習会



繁殖和牛集合審査会



福岡県飯塚農林事務所飯塚普及指導センター

令和5年3月

はじめに

飯塚普及指導センター管内は、古くから良食味米の産地であるとともに、近年は、麦や大豆、野菜、花き、果樹、畜産など多様な農業が営まれています。

しかしながら、農業を取り巻く情勢は、担い手の減少・高齢化に加え、資材費等の高騰、激化する気象災害、鳥獣被害、さらに新型コロナウイルス感染症の影響など、厳しさを増しています。

このような中、令和4年3月に策定した「福岡県農林水産振興基本計画」目標の実現に向け、飯塚普及センターでは、活動スローガン「めざそう！人がそだつ・つながる農業」を掲げ、2つのプロジェクト課題と11の係課題に取り組んでまいりました。

この成果集は、令和4年度までに一定の成果がみられた活動事例に加え、主な表彰やトピックスについてもご紹介しています。

なお、活動にあたっては、「飯塚地域担い手・産地育成総合支援協議会」を構成する市町・JA等の関係機関をはじめ、指導・青年農業士、女性農村アドバイザー、部会役員等の農家リーダー等多くの皆さまのご協力をいただきました。心から感謝申し上げます。

農業は、県民生活に欠くことのできない食料を供給するのみならず、水源のかん養や県土の保全等、計り知れない恵みをもたらす重要な産業です。

私たち普及指導センター職員25名、今後とも、飯塚地域の農業・農村の振興のため、皆さまと手を携え、行動してまいります。

引き続き、普及事業へご理解とご協力よろしく申し上げます。

令和5年3月

飯塚農林事務所飯塚普及指導センター長 浦 里果

目 次

1 令和4年気象・農業生産の概要

- (1) 気象概況 1
- (2) 農業生産の概況 3

2 普及活動の主な成果

- (1) 将来の地域農業を担う新規就農者の育成 8
- (2) 生産工程の改善による農場管理意識の向上 9
- (3) 地域農業を担う農業者の育成 10
- (4) 水田農業担い手の経営安定 11
- (5) アスパラガスの生産技術の高位平準化による産地強化 12
- (6) 花き若手生産者の定着と経営確立の推進 13
- (7) リンドウ・シャクヤクによる中山間地の生産振興 14
- (8) 後継者がブドウで稼げる仕組みを作る 15
- (9) 肉用牛繁殖基盤強化による産地の維持発展 16

3 トピックス 17

4 各種表彰 20

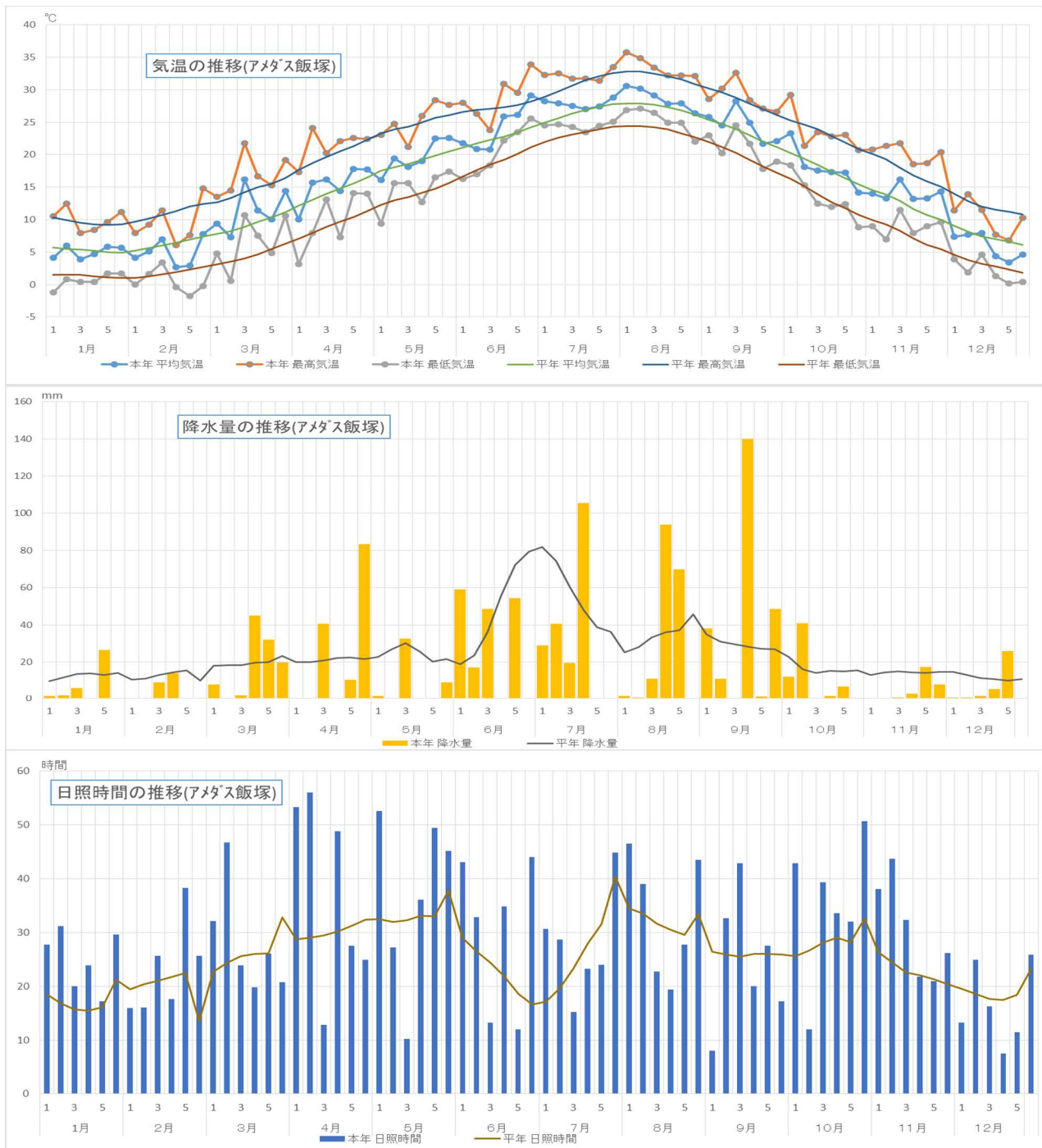
5 参考資料

- (1) 現地実証・展示ほ一覧 23
- (2) 現地活動情報一覧 24
- (3) 普及指導員調査研究一覧 25
- (4) 普及指導センターの活動体制 26

1 令和4年気象・農業生産の概要

(1) 気象概況

1月の気温は平年並みで、日照時間は前半多くなりました。2月の天気は数日の周期で変化し、気温は全般的に低くなりました。3～4月の前半は晴れた日が多く、後半は寒暖の差が激しく、夏日を観測したこともありました。5月は全般に晴れた日が多く、気温は平年並みで推移しました。6月は11日ごろに梅雨入りしましたが、全体的には日照時間が長く気温も高くなりました。7～8月は、雨や曇りの日が多く集中豪雨が発生しました。気温は全般に高く猛暑日も多くなりました。また、日照時間は平年並みでした。9月に台風11・14号が接近上陸しました。10月の天気は数日の周期で変化しましたが、後半は晴れた日が多くなりました。11月は晴れた日が多く、12月の天気は短い周期で変化し、寒気や気圧の谷の影響を受ける日が多くなりました。



<気象災害>

令和4年は、1～3月は大きな気象災害はなく、4月下旬に日雨量50mmを超える大雨があり、収穫前の麦類で倒伏が見られました。6月11日ごろ梅雨入りしたものの、6月から7月中旬までの降水量は少なく、7月下旬に梅雨明けが宣言されました。7月中旬に90mmを超す大雨となり、大豆や青ネギなどで浸水の被害がありました。9月に入り台風11号、14号が接近上陸し、果樹の落果や水稲・大豆の倒伏などの被害が出ました。10月以降は、少雨や気温の乱高下等はありませんでしたが大きな被害はありませんでした。

普及指導センターでは豪雨の発生、台風の接近、寒害・雪害などの発生が予想される時には、技術対策情報を生産者や関係機関あてに発信し、災害発生の軽減に努めました。

今年発生した主要な気象災害は、表1のとおりです。

表1 主な対象災害と影響

| 時期 | 種類 | 影響 |
|---------------|------------------------------|--|
| 令和4年 4月26日 | 大雨 50.5mm | ・小麦、大麦の収穫前で倒伏2～5程度 |
| 7月18日 ～19日 | 大雨 94mm | ・大豆、青ネギで浸水被害 |
| 9月6日 | 台風11号 強風 最大瞬間風速21.8m/s | ・畜舎 1棟倒壊 ・水稲、大豆倒伏3～5 ・ナシ、リンゴで落果 ・ブロッコリーの葉破損 |
| 9月19日 | 台風14号 強風 最大瞬間風速25.4m/s | ・水稲、大豆倒伏3～5 ・カキで落果 ・露地ギク茎曲がり ・ブロッコリーの葉破損 |

※温度や風速の数値は全て飯塚アメダスデータを利用

※被害面積・件数は普及指導センター調べ

(2) 農業生産の概況

<普通作>

○早期、普通期とも収量はやや多収だが、上位等級比率は低迷

早期水稲では、5月の降水量が少なく、一部の地域で用水不足で干ばつとなりましたが、生育期間を通じて概ね気温が高く推移し、生育は順調でした。そのため、出穂・成熟期とも平年と比べて7日程度早まり、やや多収でした。病虫害の発生は、飯塚市を中心にこれまで発生がなかったイネカメムシが多発し、不稔の発生による減収、斑点米による品質低下がおきました。

普通期水稲では、5月の降水量が少なく一部の地域で用水不足となり、田植えの遅延が発生しました。用水が確保できた地域では、6月下旬までは順調に生育し、茎数は確保されました。しかし、7月上～中旬にかけて曇天が続き、葉いもち病が全域で発生しました。7月下旬以降は天候が回復し、水稲の穂数は確保され、「夢つくし」ではやや多収となりました。「元気つくし」以降の品種については、9月の2回の台風及び紋枯病の発生により倒伏し、やや低収となりました。

品質については、「夢つくし」が白未熟粒や斑点米の発生により2等中心、「元気つくし」は1等中心でしたが、2等以下の格落理由は、充実不足でした。



イネカメムシ

○4年連続の豊作となった麦(令和4年産)

麦の播種は11月中旬に始まり、降雨の影響で12月中旬まで行われました。2月までの平均気温が平年並で推移し、12月以降の降水量が少なかったため、麦の生育は平年並で、茎数は十分に確保されました。3月以降は、平均気温が平年並～高かったため、出穂期、成熟期とも平年並～やや早く、多収となりました。品質は、大麦では1等が中心で、小麦では、「チクゴイズミ」は1等が中心でしたが、「ラー麦」は未熟粒が多かったため2等が中心となりました。病虫害の発生は、一部の地域でシロトビムシの被害が発生しました。また、カラスムギやタデ類等の雑草の発生が多く、収量が低下したほ場もありました。

○適期播種されたが、台風により低収となった大豆

大豆の播種は6月中旬から始まり、適期である7月中旬までに92%のほ場で播種されました。播種後は適度な降雨があり、出芽は良好で、生育も良好でしたが、9月にチョウ目害虫の多発生で葉が食害されたのに加え、2回の台風の襲来により倒伏が起きました。また、昨年と同様に10月の降水量が少なく、乾燥が続いたため成熟期が早まりました。収量は中粒が中心となり、前年より多いものの10a当たり100kg程度となりました。

<野菜>

○花芽分化に気温の影響を強く受けたイチゴ

育苗期は、比較的好天に恵まれ、苗の生育は良好でした。花芽分化は、早期作型は概ね順調でしたが、普通促成では9月後半に高温が続いたため、9月25日以降の分化となりました。

定植後は、全体的に順調な生育でしたが、一部で萎黄病や炭疽病が発生しました。10月初旬に気温が低下したことで、2番花房は10月15～20日頃に花芽分化しました。出荷は11月上旬から始まり、出荷はじめは小玉で推移したものの、1月上旬までの出荷量は前年の106%でした。

2番果房は連続出蕾となり、早いほ場では1月上旬から頂果の収穫が始まりました。



定植後現地検討会の様子

○気象の変化にも耐え高収量となったアスパラガス

令和4年産は12月からの低温で低温要求達成はやや遅れましたが、平年並みの蒸し込み開始となりました。

1～2月は低温が続く、特に2月は日照も少なく春芽の収量に影響しました。

3～4月は寒暖の差が激しく、立茎時期の判断が困難でした。立茎後の天候は、数日の周期で大きく変化しましたが、日照時間は平年並みで生育は順調でした。病害虫に関しては、全般的に発生は少なく、一部のハウスでアザミウマ類が多発し、9月中旬以降に一部のハウスで斑点性病害の発生が多くなりました。全体的には、適正な管理が行われ、多収となりました。



高温対策で管理徹底(剪定)されたハウス

○気象の影響を大きく受けたブロッコリー

7月下旬～8月中旬にかけて気温は高く、好天に恵まれ育苗は順調でした。9月に台風が接近、通過したものの降水量は少なく、定植は一部を除き順調に進みました。11月までは高温乾燥状態が続く、生育は早まりましたが、花蕾の乱れなどの高温障害が見られました。12月以降は一変して低温となり、生育が遅れ出荷量は減少しました。

病害虫は、平年に比べ非常に少なかったです。しかし、1月に低温障害と思われる症状が発生し、品質が低下しました。



低温障害を受けたブロッコリー

<花き>

○台風の影響を受けた露地ギク

7月までの出荷は、春期の高温が影響し開花は前進傾向でした。8月は、高温の影響でやや開花遅延した品種がありましたが、出荷は順調でした。9月以降の出荷は、2回の台風により茎葉の傷などの品質低下で出荷量は減りましたが、販売単価は例年より高めに推移しました。病害虫については、ヨトウムシ類やハダニ類が発生しました。



露地ギク

○高品質なケイトウ

5月末から6月上旬にかけて定植が行われました。定植後の降雨は非常に少なく、生育への影響が心配されましたが、かん水管理が徹底され順調に生育しました。7月中旬の局所的な集中豪雨により、一部で倒伏し曲がりなど品質が低下しました。しかし、7月下旬からの収穫期に晴天に恵まれ、全体として品質の高いケイトウが出荷され、高単価で販売されました。



生育順調なケイトウ

○安定して需要が多く高品質なトルコギキョウ

例年より気温が高く推移したことから、開花が前進化し9月から出荷が開始されました。秋出しは天候に恵まれ、高品質なものが順調に出荷されました。

夏期の少雨で、ヨトウムシ類が発生しましたが被害は少なく、また、一部で9月下旬にコナジラミが多く発生し、コナジラミ媒介の葉巻病が発生しました。コロナ禍での行動制限が解除されたため、業務需要が回復し、高い単価で販売されました。



収穫中のトルコギキョウ

＜果樹＞

○結実良好の一方、高温、着果過多の影響で着色不良が目立ったブドウ

トンネル、露地栽培での発芽・展葉は3月24日頃、満開日は5月23日頃であり、いずれも前年より3日程度遅くなりました。本年は開花期の天候に恵まれ、各作型とも結実は概ね良好でした。

糖度、酸度等の果実品質も良好でしたが、結実の良さが着果過多につながったことや、6月の夜温が高かった影響により、「巨峰」等では着色不良が目立ちました。また、一部の園でべと病、晩腐病の発生がみられましたが、裂果の発生は少なく、平年並みの収量が確保できました。



着色不良の果房

○出荷数量が近年で最も多かったカキ

「富有」の満開期は5月17日と昨年より1日程度遅くなりました。着蓄は平年並で、種入りはやや少ない傾向でしたが、生理落果が少なかったため着果数はやや多く、果実肥大は前年並みでした。

害虫については、フジコナカイガラムシやカメムシ等の被害は少なく、軟果の発生も少ない状況でした。秋期の台風襲来により傷果や葉の損傷が多くみられましたが、出荷数量は近年では最も多くなりました。

○極端な乾燥や長雨の影響により、小玉果が多発したイチジク

3月の気温が低かったため、発芽は昨年より1週間程度遅くなりました。

その後の初期生育や着果は概ね良好でしたが、一部の園で晩霜害が発生しました。また、極端な乾燥や長雨の影響による根の活性低下や樹勢の低下により、果実の肥大が抑制されたことで小玉果が多発し、出荷数量は昨年よりもやや少なくなりました。



イチジク「とよみつひめ」

○やや小玉傾向であったものの、結実良好で平年並みの収量が得られたナシ

開花前の気温が低い傾向であったため、満開期は4月6日頃と昨年より8日程度遅れました。交配期は天候に恵まれたため、結実は全体的に良好でしたが、「新高」等、晩霜害を受けた一部の品種では着果量の不足につながりました。

果実肥大は、「幸水」では良好でしたが、「豊水」以降の品種では、結実良好であったことによる管理作業の遅れにより、やや小玉傾向でした。

病虫害や生理障害は少なく、全体的には平年並みの収量でした。

<畜産>

○飼料価格等の高騰が酪農経営を圧迫し、出荷乳量はかなり減少

担い手の高齢化、後継者が不足する中、燃油・生産資材価格の上昇、特に飼料価格が過去最高水準に高騰するなどの影響を受け、管内の飼養戸数^{※1}は23戸(昨年比3戸減)、飼養頭数^{※2}は1,131頭(昨年比71頭減)に減少しました。このため、令和4年の生乳出荷乳量^{※3}は、昨年より971トン減の6,448トンとなりました。

牛乳の消費低迷も続いており、令和4年の取引乳価は、昨年並みに推移しましたが、期中改定交渉により11月から乳価は10円/kgの値上げがありました。

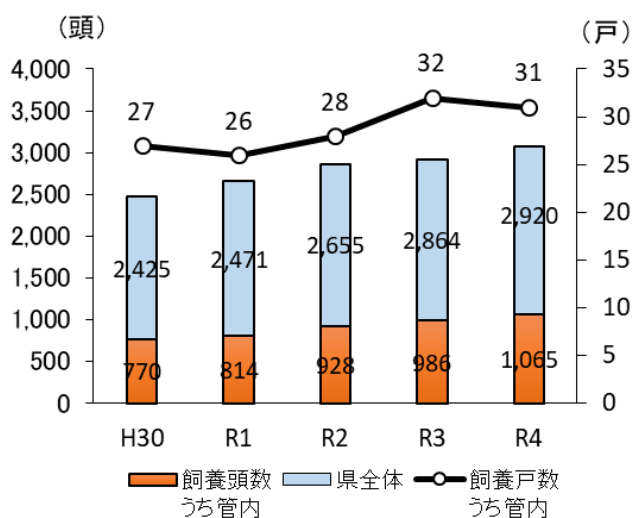
(※1、※2、※3はふくおか県酪農協調べ)

○県内トップの黒毛和種繁殖雌牛の飼養頭数

管内では、和牛繁殖雌牛の飼養頭数が増加しています。令和4年の飼養戸数は31戸、飼養頭数は1,065頭(県全体の35%)でした。

和牛子牛の価格は、肥育素牛(8~9か月齢)やスモール子牛(3~4か月齢)ともに昨年の価格より下落しました。

特に、牛の枝肉相場下落と配合飼料価格の高騰の影響で、スモール子牛は、対前年同月の価格と比べ6月以降、大きく下落しました。

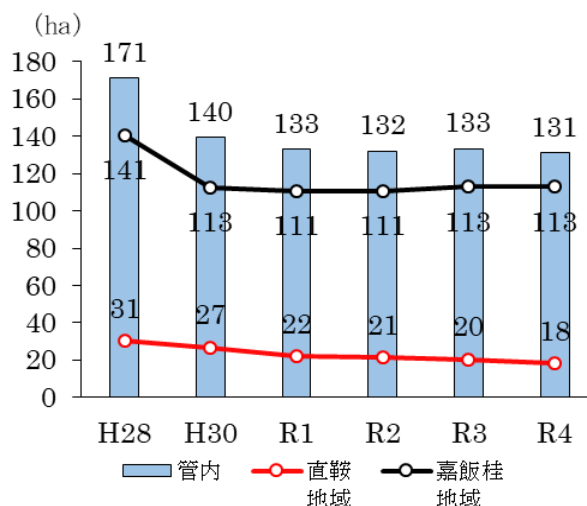


黒毛和種繁殖雌牛の飼養状況の推移

○作付面積は横ばいで推移する飼料用イネ

作付面積は、平成28年の171haをピークに減少が続き、平成30年からほぼ横ばいで推移しており、令和4年は131haとなりました。

管内では、イネで光合成された糖分が茎葉に蓄積され、牛の嗜好性や消化率が高くなる極短穂型(穂が短く籾の収量が少ない)品種の「つきすずか」等を中心に作付けされました。



飼料用イネ作付面積の推移

2 普及活動の主な成果

(1) 将来の地域農業を担う新規就農者の育成

○概要

飯塚地域の農業の維持・発展のためには、新規就農者の確保と早期の経営確立が必要です。そこで、新規就農者の確保及び経営確立、農産物の生産・販売技術等を習得できる「県認定の研修機関」の設置に取り組みました。

○対象概況

- ・就農希望者、新規就農者、農業次世代人材投資資金（経営開始型）交付対象者
- ・嘉麻市農家創生協議会（市・JA・農業委員会・普及指導センターで構成）、新規就農者の育成に意欲のある農業者、研修希望者

○活動内容

- 1 新規就農者の確保及び経営確立
 - ・関係機関との会議を行い、就農の道すじ、各機関の役割を共有
 - ・営農基礎講座、新規就農者のつどいを開催し、基礎知識の習得や交流を支援
 - ・個別巡回により、生育状況の確認や技術指導を実施
- 2 県認定の研修機関の設置
 - ・嘉麻市をモデル地区に設定し、設立検討会議を開催
 - ・嘉麻市農家創生協議会が県認定研修機関となるようカリキュラム作成等を支援
 - ・研修品目の充実に向けた農家への受入意向調査を実施
 - ・研修実施状況を確認し、課題検討会を開催



営農基礎講座（農作業安全）の様子

○成果

- 1 3年間で新たに51名が就農しました。
- 2 農業次世代人材投資資金（経営開始型）の交付が終了した20経営体のうち15経営体が就農当初に立てた青年等就農計画を達成しました。
- 3 嘉麻市農家創生協議会が令和3年度に研修機関として認定され、3名の研修生を受け入れました。令和4年度、研修受入農家が1件から7件に、研修品目は4品目から12品目に増え、研修体制が充実しました。

○今後の取り組み

新規就農者の確保と早期の経営確立に向け、関係機関と連携し支援します。嘉麻市をモデルに、他の地域についても研修機関の設立を推進します。

(2) 生産工程の改善による農場管理意識の向上

○概要

農産物の安全性の確保、環境保全、労働安全遵守などの農業生産工程管理（GAP）に対する実需者の関心は高まっていますが、管内の農業者の機運は高まらず、県GAPなどの認証に向けた動きにはなっていませんでした。そこで、生産工程管理のうち最も生産に影響する農場の管理に関する部分を「農場ルール」として農家自らが作成し、実践することを目的に取り組みました。

○対象概況

- ・生産部会 49 経営体、研究会 13 組織、認定農業者 333 経営体

○活動内容

- 1 地域支援活動の整備
 - ・飯塚地域担い手・産地育成協議会内に推進体制を整備し、作物部門別に支援チームを設置
 - ・関係機関の意識・知識向上のための研修会、先進事例調査を実施
- 2 モデル経営体の選定
 - ・推進パンフレットの作成・配布による啓発
 - ・経営体を対象にGAP研修会及び意向調査を実施し、意向調査等を基に支援チームでモデル経営体を選定
- 3 モデル経営体の農場ルールの作成、実践支援
 - ・個々の経営体にあった課題を抽出し、支援チームで農場ルールの作成・実践を支援



GAP研修会



整理整頓された農薬保管庫

○成果

- 1 モデル経営体として18経営体を選定し、そのうち13経営体が農場ルールを作成、7経営体が農場ルールの実践を行いました。
- 2 実践した経営体のうち、5経営体は福岡県GAP認証を取得しました。

○今後の取り組み

農場ルールの作成・実践に至らなかったモデル経営体には、再度、問題点や課題を整理し、継続支援していきます。また、モデル経営体の取組事例をもとにし、関係機関と連携し、地域への波及に取り組んでいきます。

(3) 地域農業を担う農業者の育成

○概要

企業の経営を志向する認定農業者を対象に、規模拡大や法人化、技術改善など個別課題の解決に向けた重点的な経営改善支援を実施しました。また、女性農村アドバイザー等に対し、経営参画への意識向上を図るため、地域及び県域での研修会を実施しました。

○対象概況

- ・経営発展を志向する認定農業者、経営体育成支援活動対象農家
- ・若手女性農業者・女性農村アドバイザー・農村女性グループ等の経営参画を志向する女性農業者

○活動内容

- 1 経営改善支援
 - ・県主催のトップランナー育成コースへの参加及び普及指導センター主催の経営者育成塾の開催により、農業者のビジネスプラン作成を支援
 - ・法人化などの課題解決のため、税理士等の専門家派遣事業を活用し支援した。
- 2 女性農業者の経営参画
 - ・女性農業者の意欲の醸成、経営力の向上を目的とした農産物の加工や先進事例視察研修を実施
 - ・女性農業者間の交流を図り、仲間づくりを支援
 - ・若手女性農業者の経営参画状況把握を目的としたリスト化



経営者育成塾の講義風景



漬物加工講座の風景

○成果

- 1 3年間で24名の農業者がビジネスプランを作成し、経営発展に向けた取り組みを行いました。4件の農家が法人となり、2件の農家が法人化に向け手続き中です。
- 2 女性農業者のアンケートでは「たくさんの人で情報を出し合い、わかりやすく実のある研修だった」と、女性農業者同士のつながりができたと好評でした。また、研修を契機に若手女性農業者リストを作成したことにより、周知の迅速化、関係機関との情報共有が可能となりました。

○今後の取り組み

引き続き認定農業者・女性農業者等への支援を行い、地域を担う農業者を育成します。

(4) 水田農業担い手の経営安定

○概要

管内は、鉱害復旧田や中山間地域等、条件不利は場が多く、麦・大豆の収量は県平均と比べ低くなっています。そこで、麦類では、大麦の安定生産、小麦のタンパク質含有率の向上、大豆では、収量低下の原因となっている「播種時期の遅れ」の対策に取り組みました。また、集落営農法人、個別大規模経営体の安定的な経営のため、農家自身による経営改善目標の設定とその実現に向けた支援を行いました。

○対象概況

- ・経営改善経営体 10 経営体
- ・管内の麦・大豆生産者（R3年度実績）
麦：75 経営体 大豆：53 経営体

○活動内容

- 1 経営改善支援 10 経営体（計 17 回）
- 2 麦・大豆の収量、品質向上
 - ・麦栽培技術展示ほ（タンパク質含有率向上） 2カ所
 - ・大豆栽培収量向上展示ほ（中間追肥） 2カ所
 - ・「ラー麦」生産者（13 経営体）重点支援 12 回
 - ・栽培講習会 9 回
 - ・栽培管理情報の提供 7 回



大豆播種前講習会

○成果

- 1 10 経営体で経営分析を行い、作付計画や栽培法（水稻乾田直播や大豆早播等）、法人化などの改善目標を設定し、7 経営体で目標を達成しました。
- 2 大麦「はるか二条」では、適期管理が実施され、平均単収は 378 kg と、平年よりやや多収で、品質は良好でした。
- 3 小麦「ラー麦」のタンパク質含有率向上では、目標の 12% 以上を達成した経営体が 13 経営体中 8 経営体となりました。小麦「チクゴイズミ」では、タンパク質含有率向上のため、講習会等で穂揃期追肥の施用を推進し、前年産は品質のランク区分が「B」だった J A が、本年産は「A」となりました。
- 4 大豆では、収量向上のために早播を推進し、早播を実施できた経営体は 8 経営体でしたが、面積の 92% で早播～適期播に取り組みました。昨年と比べて、収量は 21% 多収、1 等比率は 47% から 55% へ向上しました。

○今後の取り組み

経営体の経営安定のため関係機関と連携して、麦・大豆の更なる収量、品質向上に向けて支援します。

(5) アスパラガスの生産技術の高位平準化による産地強化

○概要

J Aふくおか嘉穂アスパラガス部会では、反収4トン越えの農家がいる一方、部会員内の技術のばらつきがあり、平均反収は2.4トンにとどまっています。また、近年、高温乾燥などの天候によりA2L以上の規格の比率が下がり低単価となっています。

そこで、低反収者・新規生産者への重点的な指導により技術の高位平準化を行い、反収の向上を図るとともに、各部会員のビジネスプランを検討し、安定した産地規模の拡大を行いました。

○対象概況

- ・ J Aふくおか嘉穂アスパラガス部会 24戸 300a
 [新規生産者(植付5年未満生産者)7戸、反収平均以下(2.4トン)生産者 10戸]

○活動内容

- ・ 管理情報の発行 60回
- ・ ほ場の定期巡回による状況の把握 9回
- ・ 現地検討会開催 3回
- ・ 展示ほ設置 5か所
- ・ 新規生産者講座の開催 1回
- ・ 個別成績書作成 2回
- ・ コンサルの実施によるビジネスプラン作成 3戸



展示ほ設置状況

○成果

- 1 令和4年度の収穫量は、県全体で前年比91%と低迷する中、64トン(前年比101%)と前年同様の収穫量を確保しました。
- 2 部会の平均反収は、県下で2位の2.4トンでしたが、目標とする4トンを超えた農家は2戸となりました。
- 3 栽培技術の向上を目指して、部会役員が1か月に1回、生産販売状況報告を部会員に行うなどの自主的な活動を行うようになり、組織としての活性化が図られました。
- 4 生産者個々に関しては、普及指導センター主催の経営者育成塾を受講し、6戸がビジネスプランを作成し、実現に向けて具体的な取り組みを行いました。

○今後の取り組み

部会の自主的な活動を基に支援しさらに組織の活性化を図るとともに、生産者の経営支援については個別にコンサルテーションでコスト等の現状把握を行い、個別の課題解決を支援し所得向上につなげます。

(6) 花き若手生産者の定着と経営確立の推進

○概要

管内の花き生産者は、新規生産者及び後継者が増加していますが、栽培品目が各々異なることや、生産者が管内各地に点在していることから互いの交流が行われていませんでした。

そこで、色々な課題に直面している経験の浅い若手生産者の交流の場を設定しました。また、個別対応として現状分析と経営状況に応じた課題と一緒に設定し、課題解決に向けた個別コンサル、先進農家視察、ほ場互評会を開催し、経営基盤強化を図りました。

○対象概況

- ・就農10年以下の若手生産者 8名
(飯塚市、嘉麻市、直方市、宮若市、小竹町)
うち新規生産者4名

○活動内容

- 1 現状分析、課題及び目標設定（経営改善計画）
 - ・個別コンサルの実施 1回/人
- 2 経営改善活動実践支援
 - ・個別巡回指導による支援の実施 11回/人
 - ・先進地視察及びほ場互評会の実施 1回
 - ・管内の先駆的農家を講師にした研修会の開催 1回

○成果

- 1 8人全員が経営改善計画を作成し、うち6人が経営改善目標を達成しました。

○今後の取り組み

未達成者に対しては、引き続き目標の達成に向けて栽培技術指導や経営指導支援を継続し、栽培技術向上、経営改善を支援します。



花き先進農家視察



ほ場互評会



先駆的農家を講師にした研修会

(7) リンドウ・シャクヤクによる中山間地の生産振興

○概要

管内の中山間地域では、生産者の高齢化により、露地ギクを中心とした花きの生産面積、生産量、生産額の減少傾向が続いています。そこで、露地ギクの代替品目として中山間地域に適したリンドウと、県内有数の産地として有利販売が期待できるシャクヤクの生産振興を図りました。

○対象概況

- ・ J A直轄管内(宮若市)：リンドウ生産者2名(7a)、シャクヤク部会8名(145a)
- ・ J Aふくおか嘉穂管内(飯塚市)：リンドウ生産者1名(5a)
- ・ 管内の花き生産者

○活動内容

- 生産面積の拡大
 - ・ 展示ほの設置 2か所
 - ・ 各品目の推進方策を関係機関と検討 随時
- 品目導入者の定着
 - ・ リンドウ現地検討会 1回
 - ・ シャクヤク部会現地検討会 3回
 - ・ シャクヤク経営分析 1回
- 地域栽培指針の作成
 - ・ 地域版の栽培指針作成と更新(リンドウ・シャクヤク) 1回



リンドウ展示ほ



シャクヤク現地討会

○成果

- リンドウの生産者は7名と、4名増加しました。シャクヤクの栽培面積は185aで、42a増加しました。また、リンドウは8月出し主体の作型から9月出しも増えたことで、作期が拡大しました。
- リンドウを新規導入した生産者は、さらに新品種を導入するなど、定着しました。シャクヤクは、品種の生産性や単価などを分析し、有望な品種を選定しました。
- リンドウは、地域に合った定植時期、病害虫対策などを明記した栽培指針を作成しました。シャクヤクは、除草、時期別の摘蕾本数や、鮮度保持のための注意点などを記載した栽培指針を作成しました。

各品目の生産者及び面積の推移

| | | 令和元年 | 令和4年 |
|-------|---------|------|------|
| リンドウ | 生産者数(人) | 3 | 7 |
| | 面積(a) | 12 | 27 |
| シャクヤク | 生産者数(人) | 8 | 8 |
| | 面積(a) | 143 | 185 |

○今後の取り組み

リンドウは、作期の拡大及び各ほ場に適した栽培管理等を徹底し、さらに市場評価が高い産地確立を図ります。シャクヤクは、家庭用の需要が高まっているため、日持ち性向上の試験を行います。

両品目とも、中山間地域の需要の高い特産品目として、関係機関と連携して、収量・品質向上に向けて支援します。



鮮度保持処理を行ったシャクヤク

(8) 後継者がブドウで稼げる仕組みを作る

○概要

J Aふくおか嘉穂ぶどう部会の若手部会員を対象に、平成 27 年度から後継者育成を目的とした勉強会、先進地事例調査、展示ほ実証等により、栽培技術レベルの向上を図ってきました。しかし、一人ひとり経営上の課題は異なっていることから、若手部会員がそれぞれに課題を設定し、自ら取組む課題の解決に向けた取組みを実施することとし個別巡回や展示ほの設置、勉強会等を開催しました。

○対象概況

- ・ J Aふくおか嘉穂ぶどう部会 31 戸
うち若手部会員 8 戸

○活動内容

- 1 課題解決に向けた取組
 - ・ 管理講習会の開催 2 回
 - ・ 個別巡回による技術指導 3 回/人以上
 - ・ 展示ほの設置 1 か所
 - ・ 勉強会の開催（シャインマスカット討論会の開催等） 3 回
 - ・ 部会への活動報告 1 回



勉強会の様子

○成果

- 1 若手部会員を対象に個別巡回や聞き取り調査等を行い、8 名が今年度取組む課題を設定しました。
- 2 勉強会では「シャインマスカット」の適切な栽培方法について討論会を開催し、「シャインマスカット栽培マニュアル（嘉穂版）」を改訂しました。
- 3 今年度設定した課題について、8 名中 4 名が課題を解決することができました。

○今後の取り組み

今回課題解決できなかった若手部会員に対して未達成の要因分析を行い、次年度は対象者全員が課題解決するよう引き続き個別巡回や展示ほの設置、管理講習会の開催等を行います。

また、今年度課題解決できた若手部会員に対しても、さらなる栽培技術レベルを向上するために新たな課題を設定し、課題解決に向けた取組みを J Aふくおか嘉穂ぶどう部会や関係機関と連携して支援していきます。

(9) 肉用牛繁殖基盤強化による産地の維持発展

○概要

管内では、酪農経営から和牛繁殖経営への転換が進み、生産者数、飼養頭数ともに増加しています。しかし酪農経営からの経営転換等により、和牛繁殖を開始して間もない生産者も多く、生産者の負担軽減が求められていました。そこで、福岡嘉徳和牛改良組合の活動を通じて、母牛の改良、共同出荷体制の構築及び子牛の販売成績の向上に向けた支援に取り組みました。

○対象概況

- ・ JA ふくおか嘉徳繁殖和牛部会（和牛改良組合） 16 戸（繁殖和牛 310 頭）
- ・ 子牛販売頭数 162 頭

○活動内容

- 1 和牛繁殖部会（改良組合）の体制整備
 - ・ 産地の拡大と労働負担軽減のため、出荷時の負担を軽減できる共同出荷体制の構築を推進
 - ・ 和牛改良の現状を分析し、改良組合としての目標設定に向けた検討会を開催
- 2 繁殖雌牛の生産性の向上と改良
 - ・ 発育良好な牛を見て学ぶ生体観察研修会を年 1 回開催し、改良を支援
 - ・ 令和 4 年度には、第 12 回全国和牛能力共進会への出品を目指した研修会を開催
- 3 出荷子牛の発育改善
 - ・ 生産者ごとに子牛の発育目標を設定し、子牛の発育状況を調査・分析して発育の改善を支援



生体観察研修会

○成果

- 1 当初 10 戸 238 頭でスタートした和牛改良組合は、令和 4 年には 16 戸、繁殖和牛の頭数も 310 頭まで増加し産地が発展しました。
 - ・ 令和 4 年 1 月から共同出荷体制を構築したことで組合員の負担を軽減できました。
 - ・ 改良組合の平均販売額で市場平均価格以上とするという目標を設定しました。
- 2 繁殖雌牛の生産性の向上と改良については、全国和牛能力共進会への出品には至りませんでした。県予選会に 3 頭を出品しました。
- 3 出荷子牛の発育改善については、熊本市場（スモール）の子牛出荷時の組合平均体重が、令和元年の 132.5 kg から令和 4 年は 135.8 kg に増加しました。

○今後の取り組み

目標達成に至らなかった生産者には引き続き支援を行うとともに、和牛改良組合が設定した改良目標の達成に向け、関係機関と連携し支援します。

3 トピックス

(1) 衛生管理講座「HACCPの実践手法を学ぼう」

飯塚地区農村女性グループ連絡研究会では、会員の資質向上と交流を目的として、毎年、研修会や現地視察を開催しています。

令和3年度から、農産物の加工においても、HACCPに沿った衛生管理が義務化されたことから、その対応として、衛生管理講座を開催しました。講座では、専門家を招いて、会員の加工場で、加工工程ごとに指導を受けました。会員からは「今まで難しいと思っていたHACCPが身近になった。」と大変好評でした。



出荷直前の現地検討会

○今後の取り組み

今後も農村女性の経営参画のため、女性農業者に対し加工だけでなく経営管理も含めた支援をしていきます。

※HACCP：食品を扱う過程において、食品の安全性を確保するために重要な工程を管理し、その記録を残し、製品の安全性を確保する衛生管理の手法

(2) ドローンによる空撮画像を活用した「ラー麦」の生育診断の検討

ラーメン用小麦「ラー麦」は、ラーメン適性を確保するために12%以上のタンパク質含有率が目標となっています。タンパク質含有率は、収量が高いと低下しやすくなります。穂揃期追肥は、収量を高めずにタンパク質含有率を高める効果がありますが、これまでは、麦の生育に関係なく基準量を施用していました。今回、ドローンで撮影した生育期間中の画像を解析し、収量とタンパク質含有率の予測方法を検討したところ、タンパク質含有率の予測はできませんでしたが、3月下旬に撮影した画像を解析すると、収量は予測できる可能性が示唆されました。このことから、画像解析により、多収が予測される場合には穂揃期追肥量を増肥することで、タンパク質含有率の上昇対策として活用が期待されます。



ドローンによる撮影

○今後の取り組み

タンパク質含有率の高い「ラー麦」生産ができるように、ドローンの解析データを活用した診断法の実用化を目指します。

(3) 柚子胡椒の原料生産順調ー加工用トウガラシの栽培ー

J Aふくおか嘉穂では、夏の収入源の1つとして加工用トウガラシの栽培を推進しており、年々生産者が増えています。

加工用トウガラシは、柚子胡椒の原料として、6月下旬から10月末まで緑色のトウガラシを主体に、完熟した赤トウガラシも生育後半で出荷されます。

令和4年は、11戸の農家が作付けをしており、天候に恵まれ病害も少なく、900 kgを超える出荷量がありました。

収穫に手間がかかりますが、軽量のため、高齢者や女性の取組みが増えています。

○今後の取り組み

J Aと連携し、講習会やほ場巡回により栽培管理や防除対策等を指導徹底するとともに、今後、多収性の品種への誘導など、一層の推進を考えています。



出荷直前の現地検討会

(4) コナジラミ類の薬剤抵抗性と防除実態を調査

管内の花き（トルコギキョウ、鉢物）ハウス内でコナジラミ類が多発しているため、薬剤（農薬）抵抗性と防除実態の調査を行いました。

奈良式簡易検定法を改良した検定方法を用い、薬剤抵抗性を調査しましたところ、これまでの薬剤の使用状況により、薬剤抵抗性に違いがあることが分かりました。

また、防除実態調査結果から、ハウス内とその周辺にキク科やシソ科の雑草が多いハウスには、コナジラミが多発する傾向が認められたことから、除草を徹底することが重要であることが分かりました。

○今後の取り組み

温暖化によりコナジラミの発生が増加しており、今回の調査結果を基に、より効率的で総合的な防除体系づくりを支援します。



薬剤抵抗性試験中のコナジラミ

(5) JAふくおか嘉穂柿部会の出荷数量がV字回復

JAふくおか嘉穂柿部会は、産地構造改革計画において出荷数量増加を目標に掲げています。

このため、講習会（せん定、摘蕾、摘果）や防除説明会を行うとともに、現地で大きな問題となっているフジコナカイガラムシの現地調査（14地点）や高収量園の概況などを部会員に情報提供し、栽培管理の徹底を呼び掛けてきました。

今年は、9月の台風14号の影響により飯塚市庄内のカキ団地で果実のスレや落葉など大きな被害を受けました。しかしながら、前年に比べ病害虫の発生が少なかったこと、更に生産者の努力もあり、本年の柿部会の出荷数量は、410トンと前年より約1割増加しました。

○今後の取り組み

今後もカキ生産者の経営改善に繋がるようJAと連携し、栽培管理講習会や現地調査等を引き続き行っていきます。



収穫前の「富有」

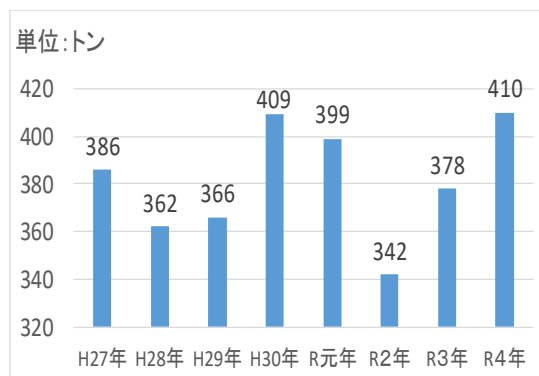


図1 柿部会の出荷量の推移

(6) 「筑穂牛」あかね荘で直売を開始

「筑穂牛」の生産者が減少するなか、飯塚市山口のレストラン「あかね荘」が、令和3年1月から自ら素牛を2頭導入し、飲食業から畜産業へ参入しました。その後、肥育牛の飼養管理で奮闘すること20か月、令和4年9月に「筑穂牛」の初出荷に合わせて、直売所をオープンしました。

直売所では「筑穂牛」の希少な部位の肉やハンバーグ、コロッケ、メンチカツ等の販売も行っていきます。

○今後の取り組み

今後、「あかね荘」3代目の井上直樹さんは、年間60頭の「筑穂牛」の出荷を目指しており、引き続き飼養管理等生産技術面を支援します。



あかね荘直売所と3代目井上直樹さん

4 各種表彰

| 表彰事業名 | 受賞者 (敬称略) | 受賞内容 | 市町名 |
|--------------------------|----------------|--------------------|-----|
| 第16回福岡県乳牛共進会 | | | |
| 第1部 (未経産牛8か月以上12か月未満) | 森下 牧場 | 優秀賞1席 | 宮若市 |
| 第21回福岡県男女共同参画表彰 | | | |
| 女性の先駆的活動部門 | 長野 路代 | 男女共同参画推進賞 | 桂川町 |
| 第23回福岡県農林水産まつり | | | |
| 農産(個人)の部 | 遠藤 幸男 | 名誉賞 | 鞍手町 |
| 園芸(集団)の部 | 筑豊地域花き生産者連絡協議会 | 名誉賞 | 飯塚市 |
| 令和4年度福岡県花き品評会 | | | |
| 技術・ほ場の部 トルコギキョウ | 石田 豊隆 | 花あふれるふくおか推進協議会長賞 | 直方市 |
| 技術・ほ場の部 夏秋咲きギク | | | |
| 露地 小菊 | 水間 良雄 | 日本花き卸売市場協会会長賞 | 飯塚市 |
| 露地 スプレー、小菊 | 淀川 貴浩 | 福岡県花き市場協議会長賞 | 飯塚市 |
| 露地 小菊 | 横山 武城 | 福岡県花き園芸連合会長賞 | 飯塚市 |
| 露地 小菊 | 大賀 安興 | 全国農業協同組合連合会福岡県本部長賞 | 飯塚市 |

宮若市 ^{もりした} 森下牧場

第16回福岡県乳牛共進会「第1部」で優秀賞1席を受賞

新型コロナウイルス感染拡大の影響により延期となっていた福岡県乳牛共進会が5年ぶりに開催され、宮若市の森下牧場が、第1部(未経産牛8か月以上12か月未満の部)で優秀賞1席を受賞しました。本共進会は、牛の容姿や骨格、乳房のバランス等を審査する乳牛の品評会で、乳牛の改良及び酪農経営の安定的発展を目的に実施されています。

森下牧場は、現在40頭の経産牛を飼養しており、兄弟2名の後継者が就農しています。後継者を中心に日々の飼養管理や調教、毛刈り等の入念な準備を行い、その成果が評価されました。



優秀賞1席を受賞した「モンタファームアンデイトンアンリット」号

第 21 回福岡県男女共同参画推進賞（女性の先駆的活動部門）

飯塚市内野で長年にわたり農産加工品作りに取り組んできた「野々実会」代表の長野路代氏が、女性の経済的自立などに先駆的役割を果たしたとして、福岡県男女共同参画推進賞を受賞されました。女性の進出が少なかった分野に果敢に挑戦し女性の社会進出と地位向上に大きく貢献したことが評価されました。

農家に嫁いだ長野氏は、農業収入が妻に全く入ってこないことに疑問をもち、農家と主婦と洋裁店経営の3足のわらじをはき、経済的に自立を果たしました。60歳の時に「野々実会」を発足し、農産加工品づくりに注力しました。農産加工品販売を通じて、「農家の女性も農産物を加工すれば経済的に自立できること」、「安心安全な食を届けること」を示してきました。

現在も無農薬野菜の栽培加工のほか、田舎料理教室や小学校でそばの種まき、収穫、そば打ち体験を実施するなど、後世へ食の伝承を行っています。



受賞した長野氏

第 23 回福岡県農林水産まつり名誉賞を受賞

株式会社遠藤農産 代表取締役 遠藤幸男氏は、第 23 回福岡県農林水産まつりにおいて、農産（個人の部）で名誉賞を受賞されました。

遠藤氏は、平成 27 年に「株式会社遠藤農産」を設立しました。地域の重要な担い手として活動されており、50ha を超える農地を集約し、個別大規模経営体のモデルとして先進的な農業を実践されています。JA 直鞍麦作部会部会長や JA 全農ふくれん麦部会硬質麦研究会会長を長年にわたり務め、県の麦作振興、特にラー麦の生産振興に大いに貢献されています。近年は、県のスマート農業推進会議の委員を務め、令和 2 年度からは国のスマート農業実証プロジェクトに参画し、技術体系の実証に取り組むなど、県のスマート農業の推進役として大きな役割を担っています。また、農福連携による農作業の実施や障がい者を常時雇用するなど、社会貢献も行っています。



受賞された遠藤代表取締役

筑豊地域花き生産者連絡協議会

第23回福岡県農林水産まつり名誉賞を受賞

筑豊地域花き生産者連絡協議会（会員35名）は、福岡県農林水産まつりにおいて、園芸（集団の部）で名誉賞を受賞されました。

当協議会は、筑豊地域の花き振興のため、平成10年に嘉穂、直鞍、田川地区を超えた生産者が主体となって立ち上げた組織です。技術研修会、先進地視察研修会及び花屋との交流会などを開催し、切磋琢磨しながら、筑豊地域の花き生産を牽引してきました。平成16年からは、県庁1階のロビーで飾花を開始し、月2回程度、これまで315回無償で切り花を提供してPRするとともに、花きの消費拡大に貢献しました。



表彰状と金盃



県庁ロビー飾花

直方市 ^{いしだ}石田 ^{とよたか}豊隆氏

福岡県花き品評会で花あふれるふくおか推進協議会長賞を受賞

直方市の石田豊隆氏が、白色の八重品種「ボンボヤージュホワイト」で、令和4年度花あふれるふくおか推進協議会長賞を受賞しました。花あふれるふくおか推進協議会では、花き生産の推進を目的に栽培ほ場の品評会を行っています。



受賞した石田氏と受賞ほ場

石田氏は、秋出しトルコギキョウにイチゴとメロンを組み合わせた複合経営農家で、独自の土づくり、良質苗の生産、生育段階に応じた栽培管理、鮮度保持に配慮した切り花の生産を行っています。

今年度の定植期と生育期の高温、害虫の多発生等というトルコギキョウの生産に不利な条件を克服して、高品質な切り花の生産を行ったことが評価されました。

5 参考資料

(1) 現地実証・展示ほ一覽

| No. | 品目 | 課題名 | 結果の概要 | 場所 |
|-----|----|-------------------------------------|---|------------|
| 1 | 水稲 | 新規有機入り緩効性肥料の効果を「元気つくし」で検討 | 試験区の生育・収量は、慣行区と比べて同程度であり、2か年の結果から、試験を実施した資材の実用化は可能である。 | 嘉麻市 |
| 2 | | 飼料用米「みなちから」の土壌改善によるごま葉枯病対策の検討 | 土壌診断の結果、交換生石灰等が適正量より少ないほ場が多かったため、土壌改良資材の投入により改善を図ったが、ごま葉枯病の発生低減の効果は判然としなかった。 | 桂川町 |
| 3 | 大豆 | 中間追肥による増収効果の検討 | 本葉6葉期前後にLPコートS60を10kg/10a追肥したが、増収はしなかった。 | 飯塚市 嘉麻市 |
| 4 | 麦 | ドローンを活用した「ラー麦」の生育診断の検討 | 1月下旬～3月下旬にドローンによるセンシング(NDVI値測定)した結果、3月下旬のNDVI値と収量には相関が認められたがタンパク質含有率とは相関がなかった。 | 鞍手町 |
| 5 | 野菜 | 携帯型穴掘機を用いた簡易な局所排水処理による排水促進効果 | 小型の携帯型穴掘機を利用し縦穴を開けた排水技術は、アスパラガスの栽培期間中に可能な排水対策として有効であるが、粘土や真砂土でかさ上げた鉋害復旧田では、かさ上げ層を貫通できず、十分な効果が上がらなかった。 | 飯塚市 嘉麻市 |
| 6 | | ブロッコリーの難防除病害対策の実証 | ブロッコリー花蕾腐敗病に対する防除基準の充実を図るため、薬害の恐れがなく、収穫前日まで使用できるマスターピース水和剤の効果と薬害の有無を検討した。供試薬剤は、従来の薬剤と同等の効果があり、薬害汚れも無く、ローテーションの一剤として期待できる。 | 飯塚市 小竹町 |
| 7 | | 冬出し加工用キャベツにおける大玉系品種「超大球」の現地適応試験 | 直鞍地区で栽培する加工用キャベツとして、期待できる大玉系品種「超大球」の試作を行った。本品種は、栽植密度にかかわらず球形は大きくなるものの十分に結球しなかったことから、収穫量の増加とはならなかった。 | 小竹町 |
| 8 | 花き | 秋出しトルコギキョウの大苗定植が生育及び切り花品質と収益性に及ぼす影響 | 大苗は、慣行苗より、切り花品質(切り花長・側枝数・重量)が優り、3枝3輪区は65%で慣行区より6%、長さ75cm区は、68%で20%増加した。 | 宮若市 |
| 9 | | シャクヤクの鮮度保持試験 | 鮮度保持剤3資材と水を収穫後に水揚げ処理した場合、「ハイフローラコンク」500倍区が、他区や無処理区(水道水)より花持ちが長くなり、花径が大きく花色が濃くなった。 | 宮若市 |
| 10 | | 露地ケイトウの大規模化に向けた省力化機械(収穫機)の検討 | キク等で使用されている収穫機をケイトウの収穫でも可能なのか検討を行った。収穫機による葉傷等の発生もなく、露地ケイトウでも収穫可能であった。収穫時間は従来の手作業より大幅に減少したが、収穫調製作業時間は大幅に増加した。今後、収穫機を導入する際は、選花機も併せての導入が必須である。 | 嘉麻市 |
| 11 | 果樹 | カキのフジコナカイガラムシの実態調査 | 昨年に引き続き、14ヶ所のカキ園でフジコナカイガラムシの実態調査を行った。本年は、フジコナカイガラムシの越冬世代幼虫の初期防除の徹底を呼び掛けた結果、前年に比べ寄生は少なくなった。 | 飯塚市 |

(2) 現地活動情報一覧

| No. | タイトル |
|-----|-------------------------------|
| 1 | 女性農業者を対象に、漬物加工研修を開催 |
| 2 | JA直鞍ブドウ部会でスマート農業現地研修会を開催 |
| 3 | JA直鞍シャクヤク部会現地巡回・販売検討会を実施 |
| 4 | 小学生のスイートコーン定植体験 |
| 5 | 夏秋なすの省力化技術の普及 |
| 6 | イチジクの出荷数量増加を目指して！！ |
| 7 | 柚子胡椒の原料生産開始 |
| 8 | 大型直売施設開設に向けて直売野菜の生産拡大 |
| 9 | JA ふくおか嘉穂いちじく部会 GAP研修会を開催 |
| 10 | 果樹農家がアシストスーツを体験！ |
| 11 | 飯塚地域新規就農者のつどいを開催 |
| 12 | JA ふくおか嘉穂大豆作部会が総会開催 |
| 13 | 営農基礎講座「病虫害の基礎知識と防除管理のポイント」を開催 |
| 14 | 営農基礎講座「土づくりと施肥」を開催 |
| 15 | 飯塚管内農業関係高校等との情報交換会を開催 |
| 16 | 露地ケイトウで収穫機の実演会を開催 |
| 17 | 先輩農業者の就農事例に学ぶ |
| 18 | JA 直鞍イチジク部会の出荷順調！！ |
| 19 | イチジク「とよみつひめ」をつくってみませんか？ |
| 20 | 飼料用米品種「みなちから」の採種の取り組み |

| No. | タイトル |
|-----|------------------------------|
| 21 | JA ふくおか嘉穂柿部会が全体協議会を開催！！ |
| 22 | 花き生産者現地視察を開催 |
| 23 | 飯塚地区高校生農業セミナーを開催 |
| 24 | 経営者育成塾の開催 |
| 25 | いちご高設栽培セミナーの開催 |
| 26 | 筑豊地区農業青年等合同発表大会の開催 |
| 27 | 経営者マインドの向上を目指して |
| 28 | 飯塚担い手協担い手育成部会水田農業班研修会の開催 |
| 29 | 飯塚地区高校生農業セミナーを開催 |
| 30 | JA ふくおか嘉穂いちじく部会員が福岡県GAP認証を取得 |
| 31 | 飯塚地区農村女性グループ連絡研究会が視察研修開催 |
| 32 | 法人経営について学ぶ |

(令和5年2月発行まで)

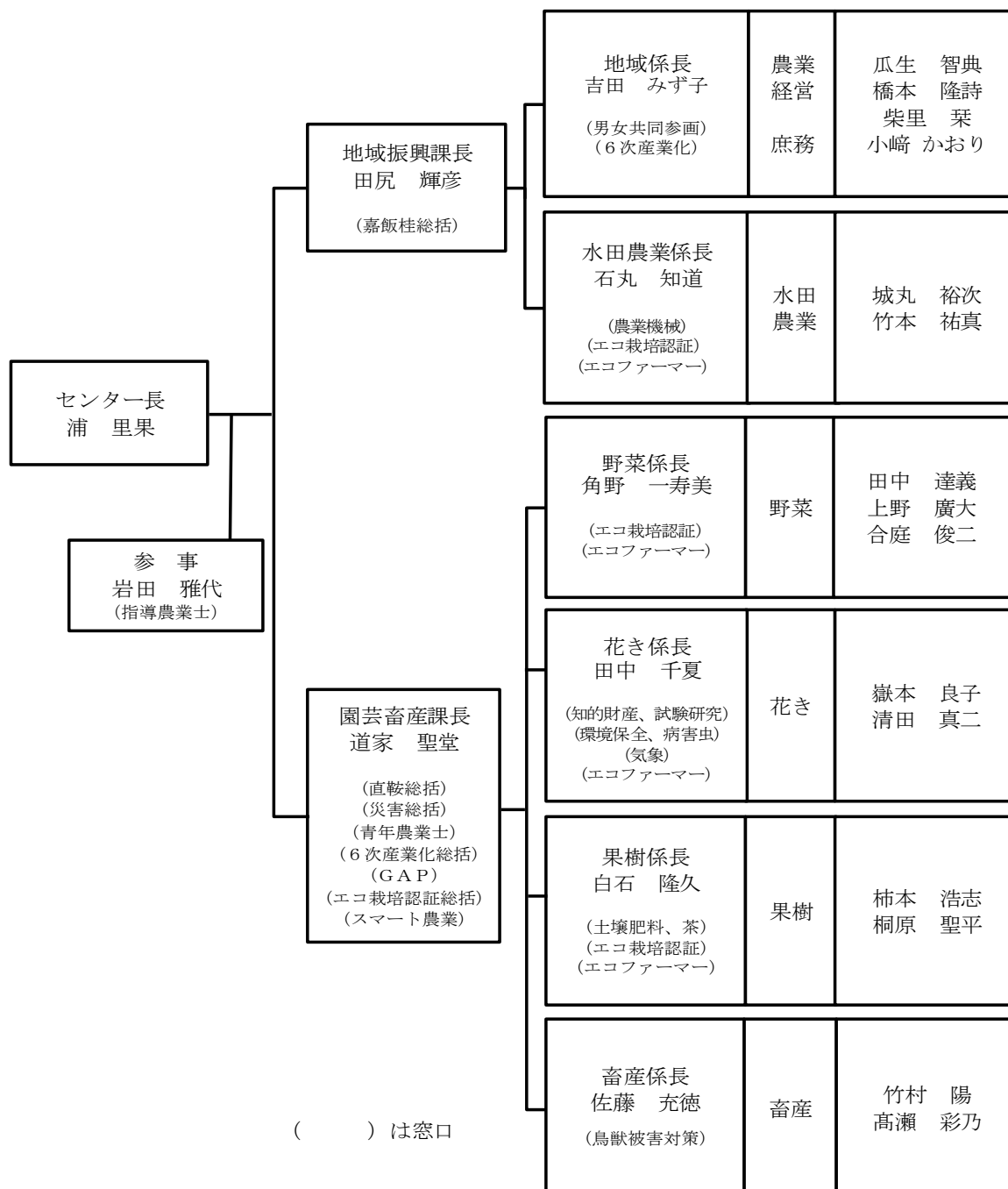
(3) 普及指導員調査研究一覧

(○印は、主担当者)

| No. | 課題名 | 概要 | 部門 | 担当者 |
|-----|--|--|----|-----------------------|
| 1 | 県認定の研修機関における農業研修生の就農、定着に向けた支援体制の課題整理 | 県認定の研修機関の研修生及び受入農家にアンケート調査を実施し、課題を整理した。また、研修体制について取りまとめ提案した。 | 地域 | 吉田 ○瓜生 橋本 柴里 |
| 2 | ドローンの空撮画像を活用した「ラー麦」の生育量把握と生育量に応じた穂揃期追肥の増肥によるタンパク含有率の確保 | 3月下旬にドローンではほ場をセンシング（NDVI値）すると、タンパク質含有率との相関は認められなかったが、収量とは相関が認められた。また、収量コンバインで測定したタンパク値は、実際より高く示された。 | 水田 | 石丸 |
| 3 | 八木山地域の早期コシヒカリにおける雑草（ウリカワ、藻類）多発生への対応検討 | 雑草や藻の発生時期、除草剤の使用時期等、現状把握を行った。その結果、雑草多発の原因は、雑草発生時期が早いことや、藻対策のため除草剤散布後もかけ流しが行われている等であることがわかった。 | | 城丸 |
| 4 | 土地利用型大規模経営における子実コーン導入の検討 | 子実コーン収穫後及び麦は種前の土壌分析を実施。今後、麦収穫後の土壌分析を実施し、子実コーンの茎葉鋤込みによる土壌改善効果を確認する。 | | 竹本 |
| 5 | イチゴ産地の個別課題分析と支援方法の検証 | 生産者自身が設定した目標達成に向け、課題の抽出、現状分析を行い、課題に対応した研修会を開催した。栽培終了後、研修会の効果、個別巡回支援等による産地の活性化について検証する。 | 野菜 | 角野 |
| 6 | ハウス内外の携帯型穴掘機を用いた簡易な局所排水処理による排水促進効果の実証 | 携帯型穴掘機で縦穴を開けた排水技術は、アスパラガスの排水対策として有効である。しかし粘土や真砂土でかさ上げした鉋害復旧田では、かさ上げ層を貫通できず、十分な効果が上がらなかった。 | | 田中 |
| 7 | 秋出しトルコギキョウにおける苗齢の違いが品質と収益性に及ぼす影響 | 大苗区は、切り花品質（切り花長・側枝数・重量）が優り、3枝3輪区は65%で慣行区より6%、長さ75cm区は、68%で慣行区より20%増加した。 | 花き | 田中 |
| 8 | 草花におけるコナジラミ類における効果的な薬剤防除体系の確立 | 調査地点により薬剤抵抗性に違いがあったが、現地調査からハウス内と周辺に雑草が多いハウスには、コナジラミが多発する傾向が認められた。 | | ○嶽本 清田 |
| 9 | フジコナカイガラムシの交信攪乱剤を設置したほ場の実態調査 | カキ園に交信攪乱剤を設置し、越冬世代幼虫と第1世代幼虫の発生期に薬剤散布を行った園では、フジコナカイガラムシの寄生が認められなかった。 | 果樹 | 白石 |
| 10 | ナシにおける静電風圧式受粉機を利用した受粉が結実、果実品質に及ぼす影響 | 静電風圧式受粉機による人工受粉は、梵天受粉よりも使用花粉量は増加したが、作業時間は概ね半減した。受粉作業に係る経費は、静電受粉の方が多かったが、雇用費の削減により実際の経費は減少した。 | | 柿本 |
| 11 | ブドウ「BK シードレス」における省力栽培の可能性の検討 | 「BK シードレス」の省力栽培では、慣行栽培と比較して果房重が大きく、粒数が多くなったが、その他果実品質に差は出なかった。また、省力栽培により花穂セットと摘粒の作業時間は最大16時間/10a短縮した。 | | 桐原 |
| 12 | 水田におけるデントコーンの残根対策の検討 | ロータリー耕で作業を4パターンに設定し、残根の状況を調査した。土中に根が張った状態ではロータリー回転数が高回転で根の破碎が良く、トラクタの作業速度では差異は見られなかった。 | 畜産 | 佐藤 |
| 13 | 耕種農家との連携による飼料生産の検討 | 酪農家から耕種農家への委託栽培による飼料（青刈りトウモロコシ等）生産について、作業分担、経費分担、収益性を調査し、目標となる収量と買取単価のバランス、栽培の留意点について検討した。 | | 竹村 |

(4) 普及指導センターの活動体制

ア 課係体制



イ 班活動の体制

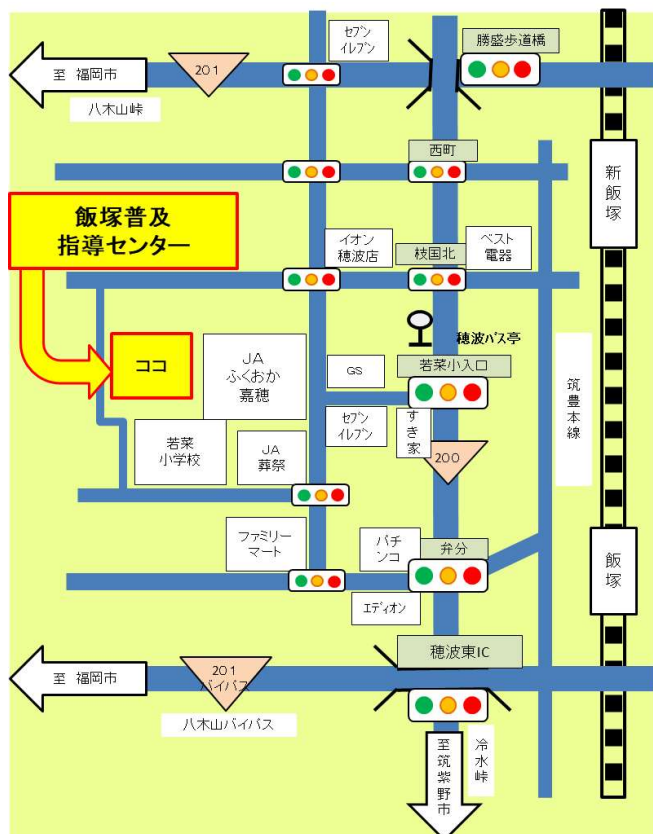
(ア) センター内運営事項による分掌 (推進班)

経営体育成推進班、担い手育成推進班、
情報活用推進班、安全・安心農畜産物推進班

(イ) 地域班

嘉飯桂地域班、直鞍地域班

周辺地図



庁舎への交通アクセス

車

八木山バイパス「穂波東IC」から約1.2km
「若菜小入口」交差点から約750m

JR

福北ゆたか線飯塚駅または新飯塚駅下車
タクシー約10分

西鉄バス

穂波バス停から徒歩約10分
「若菜小入口」交差点から約500m

福岡県飯塚農林事務所飯塚普及指導センター

〒820-0089 福岡県飯塚市小正 319-1

TEL : (0948) 23-4154

FAX : (0948) 29-4866

E-Mail : iizuka-dlc@pref.fukuoka.lg.jp

HP : <http://www.pref.fukuoka.lg.jp/soshiki/4704804/>

福岡県行政資料

| 分類番号 | 所属コード | 登録年度 | 登録番号 |
|------|---------|------|------|
| PA | 4703419 | 4 | 0001 |